



Neurocritical care up to date.

～最新の神経集中治療と今後の展望～

演者 **江川 悟史** 先生

TMG あさか医療センター
神経集中治療部 部長 / 集中治療室 室長 /
脳神経外科、脳卒中てんかんセンター

2000年代に入り米国では Neurocritical care society が設立され、神経集中治療が非常に盛んになっている。

一方で我が国においてもその重要性が理解され、興味を持つメディカルスタッフも増えている。

日本集中治療医学会の関連では、神経集中治療関連の演題が増加し、神経集中治療ハンズオンセミナーや神経集中治療脳波セミナー（2019年に開催）など教育を行う機会も確保される様にもなった。

また Neurocritical care society が開催している Emergency Neurological Life Support (ENLS) も本邦で受講が可能である。これらの傾向から今後本邦でも神経集中治療の標準化が十分期待され得る。

一方で欧米諸国では、Neurointensivist の活躍の場が増え、臨床や研究面においても専門性を発揮している。

例えば、非痙攣性てんかん重積状態などの、見えない発作を見つけるための脳波モニタリングは非常に大事であるが、それだけではなく、Quantitative EEG を用いた発作の解析や、くも膜下出血での遅発性脳虚血の予測、重症脳障害患者での神経学的転帰の予測など様々なものがある。それ以外にも multimodality monitoring を用いた重症脳障害の患者の治療戦略など全世界的に見て神経集中治療が発展している。

本教育セミナーでは、日本での神経集中治療の現状を紹介し、さらには演者の知る限りの最新の知見を紹介する。

また演者自身が神経集中治療をなぜ目指したのか、初心に振り返り、本邦での Neurointensivist のあり方や、今後我々が目指すべき神経集中治療とは何かを皆様と一緒に考える機会にしたい。